

研究タイトル	光触媒を利用した身近な汚染物質除去の方法 低価格での使用のために
要旨	<p>本研究では、光触媒技術は静止物体よりも動体に活用した場合に、汚染物質除去効果が高まるというこれまでの研究結果を踏まえて、光触媒スプレーを塗布する素材の違いが光触媒の汚染物質除去効果に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。木材、鉄、ゴム、プラスチック、アルミニウム、綿の6種類の素材に三酸化タングステンを含む光触媒スプレーを塗布し、密閉空間内における線香の煙に含まれるベンゼン濃度の時間変化を測定した。その結果、木材を除く素材において、光触媒スプレーを塗布した場合はしなかった場合と比較してベンゼン濃度が低下する傾向が確認された。また、素材間の低下率は異なり、鉄で最も高い値を示したが、今後有意差の有無を検定する必要がある。この結果から、素材の違いが光触媒の汚染物質除去効果に影響する可能性が示され、今後の光触媒技術の普及につながる効果的な活用方法を検討する上での有用な知見が得られた。</p>